

むきぼんだ花だより 12月

2014. 12. 6

温暖化により年ごとに厳しさをます夏。 尽きぬ夏に突入してしまったのではないかと募る不安。
しかし月日は流れ、しばしの心地よい季節を経て 雪が舞う大地に。 幼き頃は夏は夏、冬は冬で楽しい
ことがあり、次の季節を想うことはありませんでしたが、歳を重ねた今、春の訪れを強く願うこの頃です。
自然との対峙が峻烈な遺跡の住人の願いの大きさはいかほどだったでしょう。



ネズミモチ

名前は、果実の実と色がネズミの糞に似ている
ことから由来している。
この果実酒は若返りの薬として良く知られている。

「さるなしの実を食べもして妻木晩田」
もと



サルトリイバラ

名はトゲのあるつるにサルが引っかかって
捕えられたことに由来する。
山帰来とも言われる。
根茎は各種の皮膚病の治療薬となる。



ハゼノキ

葉はつやがあり、やや厚みがあって細長い。
真っ赤な紅葉が美しいが、触れるとかがぶれる。
果実はロウソクの材料として利用される。
松江藩ではこのロウソクの販売で、
藩の財政を建直したと伝えられている。

植物に解説文を付記しました。
生物学的説明には青字で、



ヒメヤシャブシ

姫夜叉五倍子



イヌビワ

果実は熟すと食用となるが美味しくない。
材を細かく裂き、縄文時代に籠を作った。
非杣杷(イヌビワ)



スイカズラ

花の奥に蜜があり吸うと甘く、和名の由来となっている。
和名は忍冬、冬でも寒さに耐えその葉がしぼまないことに由来。
白色と黄色の花がまじりあって咲くので金銀花ともいう。
薬効は解熱、利尿に効く。



オオバヤシャブシ

葉は互生し、雌花序は雄花序より上につく。
実にはタンニンを含み、
黒褐色に染めることが出来る。
御葉黒にも使用された。実が小さい
ヒメヤシャブシもある。大葉夜叉五倍子



ウメモドキ

葉の形がウメの葉に似ていることから名がついた。
初秋に赤く熟す果実は美しく、
晩秋に葉が落ちて実が残る。
庭木、盆栽、生け花などに利用される。雌雄異株。



シログモ

葉のおもては濃緑色で光沢があり、葉の裏は灰白色である。赤い果実をつける。
黄色の果実をつけるのはキミノシログモという。雌雄異株、花と実が同時に見られるのが特徴、神事に用いられた木で、葉裏の白と、霊(タマ)がダモになって名がついたといわれる。



キミノシログモ

葉の表は濃緑色で光沢があり、葉の裏は灰白色で、枝先の葉は輪生状になる。秋に黄褐色の花が咲き、同じ頃前年の花が黄色の実になるので、花と実が同時に見られる。雌雄異株。



カマツカ

材は堅く折れ難いため、鎌の柄にしたことによる。牛の鼻に縄を通すための穴をあけるのに用いられ、鼻輪としても使用された。



リョウブ

若葉はアクを抜いてご飯に混ぜて食べられる。
⇒リョウブ飯。
名は、救荒食糧としてリョウブの採取と貯蔵を命じた令法(リョウボウが訛ってリョウブに)が発せられたことに由来する(平安時代)。
古名はハタツモリ(旗積り)、百万の旗がひるがえったように見えることから名がついた。



ヤマノイモ

つる性の多年草で、茎は右巻き、葉は互生。葉のわきに珠芽(ムカゴ)を付け、地面に落ちて増える。実は3枚の翼を持つ。雌雄異株。自然薯とも呼ばれる。



カマキリ



アオモジ

春先、3月、葉に先立って淡黄色の小さな花を多くつける。妻木晩田は山陰では数少ない群生地であり、遺跡に春を告げる花である。材は芳香があり、クロモジと同じように楊子に用いられる。雌雄異株。

カレンダーの植物



クロモジ

春、新葉とともに淡黄緑色の小花が咲く。材は芳香があり、和菓子に使う楊子の材料である。枝や葉から香料の原料となるクロモジ油が得られるし、クロモジ茶もできる。雌雄異株。

★むきばんだを歩く会★

- ・指導：鷲見寛幸先生(鳥取県自然観察指導員)
- ・毎月第1土曜日午前9時30分～正午
- ・入会金 2000円 毎回資料代 300円 いつでも、どなたでも入会可能です
- ・問い合わせ：むきばんだ応援団「むきばんだをある会」